

中津川市リニアのまちづくりビジョン(案) に関するパブリックコメントについて

1. パブリックコメントの実施状況

(1) 意見の募集期間 平成25年6月3日(月)～6月21日(金)

(2) 意見の応募者数(件数) 9名(30件)

(3) 提出方法の内訳

提出方法	人数
直接持ち込み	5
郵送	2
ファクシミリ	0
電子メール	2
計	9

(4) 項目別意見等の数

項目	件数
1. ビジョンの内容に関する意見	18
2. 事業全体に関する意見	5
3. リニア中央新幹線事業に関する意見	4
4. その他の意見	3
計	30

2. 意見概要と市の考え方

(1) ビジョンの内容に関する意見（18件）

意見番号	意見概要	市の考え方
1	<p>リニア新幹線には大電力が必要であり、これをどのように対策し実現に寄与するかを明確にする。</p> <p>具体的な取り組みとして、岐阜県及び中津川市には森林が多いことからバイオマス・エネルギーを創出し、これをビジネスチャンスとして地域の活性化戦略の目玉とする。生み出されるエネルギーは全体からみれば僅かでも、そのシステムや取組は、地域社会に大きな経済効果をはじめ多くの好影響を与える。</p> <p>➤1ページ (1)ビジョン策定の趣旨</p>	<p>これまでのJR東海による説明会等において、リニアは同じ速度域の航空機と比較して優れた環境性能を有するとともに、その消費電力は電力会社の供給力に比べて十分に小さいことなどと説明しております。</p> <p>エネルギー問題への取り組みについては、ビジョンの「10-3 潤いのある暮らしの創出」(74ページ)に、自然・景観・環境保全のための取り組みの一環として、「再生可能エネルギーの導入や学習など、市民・子どもたちに向けた環境教育・啓発」について記載しております。</p> <p>また、「(駅周辺の)整備のコンセプトとイメージ」(101~102ページ)の中で、「小水力や風力、太陽光などの自然エネルギーをシンボリックに取り入れた環境を意識した駅と交通広場」について記載しております。</p>
2	<p>現在の延長線上で観光客増を期待しているが、大幅な観光客増を実現する為には、大きな特徴を持たせた施策が必要。短時間で来られるからこそ大きな魅力、他と異なるコンセプトとベネフィットが必要になるはず。現状を打ち破る考えが表現されるべき。</p> <p>➤33ページ (1)地域構造の変化</p>	<p>第3章「リニアが中津川にもたらすもの」の「地域構造の変化」の中で、一つの事象としてリニアにより観光客が増加する可能性について取り上げています。</p> <p>観光に関する具体的な戦略、方策、取り組みについては、第4章の「4-4まちづくりの戦略に基づく取り組み方策」(41ページ~)と、第5章の「観光の振興」(56ページ~)の中で、「新たな観光スタイルの提案」「売り込みとおもてなし」等について記載しております。</p>
3	<p>『先人たちが汗を流して拓き、現代の私たちに遺してくれた自然・景観、産業、歴史文化や地域のつながりなどを、更に高い次元で結実させ、大切な財産「ふるさと・なかつがわ」として誇りを持って次の世代に引き継いでいきます』を実現する為には、新たな戦略が必要。</p> <p>地元で慣れ親しんでいる私たちよりも外部から訪れた方々が新鮮に思われることが有るはず。</p> <p>全体的に総花的な表現よりも、真の賑わいを創出するには、一つひとつの組み立てが大切。歴史を重んずるならば、便利さや快適さを多少犠牲にしても、歴史観を演出できることが必要。</p> <p>➤35ページ 4-1 まちづくりの理念</p>	<p>第4章は「まちづくりの理念」として、まちづくり全般についての基本的な考えを述べており、第4章の「4-4まちづくりの戦略に基づく取り組み方策」の「方策1 既存地域資源の魅力の向上と活用を進めます」(41ページ)に、「訪れる側の視点」で地域資源に磨きをかけていくことを記載しております。</p> <p>また、具体的な取り組み方策等については、第5章の「観光の振興」(56ページ~)の中で、「地域独自の自然・景観の活用」「固有の歴史文化の活用」等について記載しております。</p>

意見番号	意見概要	市の考え方
4	<p>「まちづくりの基本方針」「戦略」「方策4-5周辺地域の一体の発展」に基底的に関連する考え方として、共に停車駅を有することとなる「中津川と飯田(恵那地域と伊那地域)との連携・協働によるまちづくりの推進」および「恵那山周遊地域圏としての一体的まちづくり」を強く打ち出したい。</p> <p>2駅とも、それぞれ単独の動きではリニア効果も大きくならないし、市民および三大都市圏へのアピールも弱くなる。2駅、2地域の強力な連携・協働があれば恵那山を中心とする地域資源に新たな視点からの活用が図られると共に、リニア効果も相乗するものとなる。</p> <p>➤37ページ 4-2 まちづくりの基本方針 ➤38ページ 4-3 まちづくりの戦略 ➤46ページ 4-5 県土および周辺地域一帯の発展に向けたまちづくりの方向</p>	<p>「方策3 広域連携を促進します」(42ページ)、「(4) 隣接地域との連携強化」(47ページ)、「3-1 周辺地域と連携した周遊ルートの構築」(60ページ)に、「阿智村や飯田市など飯伊地域との観光連携」について記述を追加します。</p>
5	<p>中山道のイメージはほとんど旧中津川宿から消えてしまった。リニア新幹線の効果を期待するには、単に今存在している史跡や歴史ある建物などをアクセスし結び付けるだけでなく、魅力ある集約した街づくりが必要ではないか。</p> <p>➤43ページ 方策6 まちのにぎわいを創出します</p>	<p>「方策6 まちのにぎわいを創出します」(43ページ)に「魅力ある集約したまちづくり」に関する記述を追加します。</p>
6	<p>表現がほとんど点になっており、これを面にする具体的な戦略を明確にすべきではないか。情報発信やイベントはその手段に過ぎない。この内容では恒久的な賑わいの創出は困難に思う。真のにぎわいの創出には人を引き付けるものを探し、着実に表現するという地道な日常の活動が必要なのは。</p> <p>➤65ページ 6-1 中心市街地のにぎわい創出</p>	<p>「6-1 中心市街地のにぎわい創出」(65～66ページ)に、「点在する魅力を結び付け面にするための取り組み」に関する記述を追加します。</p>
7	<p>「方策8 人材の育成と後継者の確保」「方策11 子育て・教育環境の充実」に共通するが、リニア開通後の「中津川を担う次代の育成」こそが、何よりも最重要であるという、基本的構えが不可欠である。</p> <p>また、「ふるさとに対する愛着心の醸成」「ふるさと教育のさらなる充実」「さまざまな地域行事への参加」と記されているが、その推進主体が小中学校や社会教育一般に偏っていくのではないかと心配する。子ども達が誕生時から地域の諸行事に参加し、ふるさとのよさを実感していくのは、地域・地区の子ども会活動を通じてである。好きな子が集まって活動する団体ではなく、地区のすべての子が参加する子ども会の役割と意義を再確認して、「ふるさとに対する愛着心の醸成」を図るための具体的方策の工夫に努めたい。</p> <p>➤44ページ 方策8 人材の育成と後継者の確保を進めます ➤45ページ 方策11 子育て・教育環境の充実を図ります</p>	<p>リニアのまちづくりにおいて、教育や人材育成に関する取り組みは最も重要な施策の一つであると考えております。</p> <p>また、「ふるさとに対する愛着心の醸成」を図るための具体的方策については、「11-2 ふるさとを愛する心の醸成」(76ページ)に、「子ども会活動」に関する記述を追加します。</p>

意見番号	意見概要	市の考え方
8	<p>「豊かな自然や景観など」は、「豊かな自然、景観や文化など」とできないか。</p> <p>山梨、長野のリニア駅と同じ画一的な駅ではなく、地元で根付いた駅を作るためには、心が動く「文化」の要素が不可欠と考える。外来者、住民が駅を通過する際に、地域を感じる「シンボル」が欲しい。</p> <p>岐阜には他県にない「豊かな森林文化」があり、東濃ひのき、木曽ひのき、長良杉などの高級木材を贅沢に使った待合室やリニア駅と美乃坂本駅を結ぶ回廊など地元の人が誇りに思え、外に出たところで話題にでき、マスコミにも取り上げられ、外来者も喜べるようなシンボルがあると良いと思う。</p> <p>➤100ページ 6-2 リニアのまちづくりの顔となる「リニア駅と駅周辺」</p>	<p>当市にとって歴史、文化は自然環境と並ぶ特徴であり、本文中に「文化」を追加します。</p> <p>また、駅と交通広場の「整備とコンセプトとイメージ」の中で、「森や木、…といったなかつがわらしさを前面に出した整備」について触れましたが、駅舎などにおける「豊かな森林文化」をイメージする木材の利用等については、今後の具体的な整備計画の中で参考にさせていただきます。</p>
9	<p>「文教地区の指定など、坂本地区で検討されている様々なまちづくりの課題については、混乱を避けるためにもリニア駅周辺の整備とはいったん切り離し、今後、地域の中で一つ一つじっくりと検討を行っていきます」(105ページ)、「本地区は、生活利便性の高さを活かした宅地開発が進み、それに伴う子どもの増加に学校施設の整備が追い付いていないという課題がありますが、この課題を解決し…」(83ページ)について、この課題の解決を坂本地区まちづくり協議会はどのように考えているのか。「はじめにリニアありき」では、2分割する学校の候補地選定やそれに伴う通学路の確保等、自らの選択肢を狭め、新たな矛盾を生み出すことは必至で心配である。</p> <p>➤105ページ (2)リニア駅周辺 ➤83ページ (5)坂本地区</p>	<p>文教地区の問題は、地域の重要課題として坂本地区まちづくり協議会にてご議論いただいております、地域と教育委員会が連携して方向を見出すべき事柄であると認識しています。</p> <p>そのため、本ビジョンでは、文教地区の問題については、整備時期に期限のあるリニア駅周辺整備計画とはいったん切り離し、地域でじっくりと検討を行った上で進めるべきという考え方を示しております。</p>
10	<p>用地で多大な影響を受ける住民については、「リニア関連事業による建物移転対象者の代替用地についても確保していきます」(105ページ)という1行が付け加えられているのみ。</p> <p>また、「用地確保のための手法」(108ページ)には「中心市街地や市の周辺部には空き家や空き地も増えてきており、まちなか居住や空き家活用の推進と併せて、必要な住宅用地の確保を図っていきます」とあるが、具体策は書かれていない。</p> <p>➤105ページ ③交通結節点としてのメリットを活かした駅周辺居住 ➤108ページ ③用地確保のための手法</p>	<p>用地等でご協力をいただかなければならない皆さまについては、今後、具体的な事業計画を作成した段階で丁寧なご説明と用地交渉に努めてまいりますと考えております。</p> <p>また、代替用地をご希望される方については、できるだけご意向に沿った形で代替用地の提供ができるよう、土地区画整理、代替用地登録制度や遊休地の活用など、様々な手法で用地確保を図ってまいります。</p> <p>空き家対策については、既に空家バンクなどの施策を展開しており、今後益々の充実を図ってまいります。</p>

意見番号	意見概要	市の考え方
11	<p>リニア駅を玄関とする福祉施設(介護、高齢者等)の充実。今後65才以上の高齢者が、全国的にも増加するに伴い、それらの介護施設が不足しているのが国内事情だと思う。</p> <p>日本のまんなかで首都圏と45分、名古屋とは13分と言った地の利、自然環境、地震・土砂災害にも強い地形を活かし、東濃5市に各福祉施設を新設し有料化し、老後、安心して住める町づくりを行うことで、雇用の確保にもつながる。</p>	<p>高齢者が安心して暮らせる環境の整備は、リニアのまちづくりの重要な取り組みの一つであり、「10-1 安全・安心な生活環境の整備」(73ページ)に記載しました。</p> <p>また、雇用の確保につながる産業の一つという観点から、「7-2 新たな産業の誘致」(67~68ページ)に基づき、医療関係施設等の誘致を図っていきます。</p>
12	<p>H3年に坂本地域総合計画推進協議会が作成した坂本地域総合計画の中で、坂本地域の将来像について、「・・・この地域は今後ますます開発が進み、住民の生活も一層向上していくと思われるが、開発に当たっては環境を悪化させることなく、緑豊かな自然と調和し、夜になると蛍が飛びかい、小魚の泳ぐ清冽な流れに子どもの遊ぶ姿を見たいものである。坂本に生まれ育ち生活している人々も、坂本に移り住んだ人々も一様に活力あるゆたかで安心して生活できる坂本地域の実現をめざし、21世紀に生きる若者を育てたいものである。」と書かれており、当時の人々が、このビジョンを手にしたら何と思うか。</p>	<p>本ビジョンの策定にあたっては、坂本をはじめとする各地域とも一緒になって取り組んでまいりました。</p> <p>まちづくりの理念(35ページ)については「リニアのホームタウン 水と緑の“なかつがわ”」としましたが、これは便利になっていく中でも、自然環境などこの地域の良さを守っていこうとする坂本地域総合計画の将来像とも整合していると考えております。</p>
13	<p>JR東海による車両基地・路線・駅舎関連の用地の買収・取得という「第一波」、県・市による駅舎周辺の商業施設・駐車場関連・アクセス道路関連「第二波」が、JR東海の詳細な発表(H26秋予定)を待っていたかのようにして堰を切ったように押し寄せ、今まで地域で住民が営々として築き上げてきた生活や生活基盤が根こそぎ破壊されてしまうのでは不安がある。第一波だけでなく第二波まで考えると、千旦林地区を中心に茄子川地区を含む大多数の坂本区民が何らかの影響を受ける。</p>	<p>市等が実施するリニア関連事業については、坂本地区をはじめとする関係地域の地権者や住民の皆さまのご理解とご協力をいただくことが第一であると考えています。</p> <p>また、これまでのJR東海による説明会等において、用地取得や工事については地元の理解を得ながら適宜適切に事業を進めると説明しておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。</p>
14	<p>リニアのルートは山口地区から苗木、中津西、坂本地区を通り恵那市に至ることから、坂本区民だけでなく市内他地域の人でも多大な迷惑や被害を受け、線路近くで日陰の生活を余儀なくされる人も多く出る。多くの市民が受ける苦痛や苦悩についてどのように把握し、どう考え、どのように解決して行こうとしているのかが書かれていない。</p>	<p>市等が実施するリニア関連事業については、坂本地区をはじめとする関係地域の地権者や住民の皆さまのご理解とご協力をいただくことが第一であると考えています。</p> <p>これまでのJR東海による説明会等において、「具体的なルート及び駅位置は、超電導リニアの技術的な特性、地形、地質等の制約条件など、鉄道計画の技術的観点からの検討結果を加味したうえで、環境影響評価準備書の公告の段階で公表する」、「用地取得や工事については地元の理解を得ながら適宜適切に事業を進めると説明しておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。</p>

意見 番号	意見概要	市の考え方
15	<p>リニア駅は高さ20m以上のコンクリート壁が延々と1km以上に渡って続き、一生日の当たらない場所での生活を余儀なくされる人や、日が差さない場所で農業を続けようと思っても続けられない人が出てくる。ビジョンには、そこに住んでいる住民の生活がどうなるのか、どのようにしようとしているのかという視点が抜け落ちている。</p>	<p>本ビジョンは、リニアを活用したまちづくりの方向や取り組み方策をとりまとめたものであり、工事段階における具体的な事柄については、国による工事实施計画の認可により計画が具体化した段階で、実際の状況に即した対応をさせていただくことを考えておりますので、ご理解とご協力をお願いします。</p>
16	<p>今後、リニア関連予算確保のために、教育や福祉、社会保障、市民サービス等、生活全般にわたって市民に多大な苦難と苦痛を強いることが予想される。このビジョンについては財政的な裏付けや根拠、これに関する記述がなく、ビジョンの実現のためにいくらかかると考え、現在の市の財政規模の中で可能だと考えているのか。</p>	<p>第7章の「④まちづくりを支える基盤整備」(117ページ)に、身の丈にあった規模の整備や、需要に応じた段階的な整備を進めていく旨を記載しております。</p> <p>整備にあたっては、財源等について実施する事業に対応した有利な補助制度等の活用を心がけるなど、市の健全財政を維持しながら、一つひとつ着実にまちづくりを進めていきたいと考えております。</p>
17	<p>JR東海によるリニア中央新幹線計画そのものの是非も問われている中、ビジョンはメリットを過大評価し、推進一辺倒。根拠や財政的裏付けもなく、住民不在のバラ色の未来を作文して見せているだけに思え、これで本当に市民生活が向上するのか。多大な犠牲を地域住民や子孫に強いる姿勢は間違っており、「はじめにリニアありき」でよいのか、再検討すべき。</p>	<p>人口減少、少子高齢化社会の進展により、地方の活力が衰退していく懸念が大きくなる中で、リニアは当市にとって地域の活性化、コミュニティの維持等に資する大きなチャンスだと考えております。</p> <p>本ビジョンは、リニアをどのように活かしてまちづくりを進めていくべきかを取りまとめたものであることから、市民生活全般に関わる事柄の基本的な方向については、間もなく策定に着手いたします総合計画及びそれに基づく各分野における実施計画の中で検討していきます。</p>
18	<p>人間は地球と言う限られた環境の中で自然と共生し、地球に生きる全ての人々と共存共栄を図るべき。地球の全ての貧困にあえぐ極めて多くの人々の事を放っておいて自分達だけが科学の発展の名の下に不急不要のインフラを手に入れるべきではない。</p> <p>中津川市はリニア建設が既定の事実で、その実現が中津川市の繁栄に繋がるものと短絡的に考えてビジョンを描くのではなく、そもそも本当に豊かな町中津川を創るためにはどのような事が考えられるか、リニア建設の要不要の判断も含めてビジョンの策定を今一度一からすべき。</p>	

(2) 事業全体に関する意見 (5件)

意見 番号	意見概要	市の考え方
19	<p>国家プロジェクトとしてのリニアのチャンス、千載一遇のものとするは良しとしても、メリットの過大評価、デメリットやリスクなどの過小評価、デメリットやリスクなどの過小評価には十分な配慮が必要ではないか。</p> <p>夢や希望を大きく持つことの意義は承知しながらも、その裏側に潜んでいるかもしれない落とし穴にも、注意しなければならない。</p>	<p>ストロー効果による人・消費・企業などの流出等のデメリットへの対策については、各分野における具体的な事業計画において個別に検討していきたいと考えております。</p> <p>また、自然・景観への影響、市民の不安等については、事業の進捗状況に合わせ適切に対応していきます。</p> <p>なお、基盤整備関連については、「第6章 リニアのまちづくりを支える基盤整備と土地利用」(95ページ～)に記載したとおり、メリットの過大評価による先行投資的な開発等は避け、需要に基づく適正規模の開発等を進めていきます。</p>
20	<p>リニアは今世紀最大の自然、環境、景観破壊の無駄事業。</p> <p>飽くことなき利便性追求がもたらす、超高速棺桶列車のリスク。高料金による金持ちの乗物による乗物格差、新幹線の屋上屋を重ねる愚行。待合室も切符売場もない田舎の停車場、一日一本停まる程度、一日の乗降客数名程度、美しい田園風景を壊しただけの岐阜羽島駅が目につく。</p> <p>一運送会社の手先となって軽挙盲動は慎むべき。物事には表と裏がある、一営利企業の下請け宣伝の如き表だけを採り上げる夢のビジョンと共に悪夢のビジョンも明らかに。</p>	<p>人口減少、少子高齢化社会の進展により、地方の活力が衰退していく懸念が大きくなる中で、リニアは当市にとって地域の活性化、コミュニティの維持等に資する大きなチャンスだと考えております。</p> <p>リニアが地域の活性化に最大限活かされるよう、本ビジョンに基づき市民の皆さまと一緒に取り組んでいきたいと考えております。</p>
21	<p>美しい中山間地の自然環境景観を守るのが行政と住民の使命だ、作ることはバカでも出来る、守ることの大事を認識すること、そのために、リニアの施設はすべて地下に埋設すること、こうしたことの出来る力量を備えた人間を担当に配置すること、これが先決だ。</p>	<p>『6-2 リニアのまちづくりの顔となる「リニア駅と駅周辺」』(100ページ～)、『6-4 なかつがわらしさを守る「まちづくりのルール」』(108ページ～)に記載した基本的な考え方に基づき、豊かな自然環境、景観等についても守っていききたいと考えております。</p>
22	<p>中津川市ののどかな風景を孫子の時代に残したいと強く思う。リニアが爆発的な波動を伴ってトンネルから飛び出し、長々と伸びた高架橋の中を走る風景は想像すらしたくない。</p>	<p>景観保護の観点では、当市が行うべき対策として駅周辺整備や必要な開発などにおいて景観等に配慮した整備を行っていきます。</p> <p>また、『6-4 なかつがわらしさを守る「まちづくりのルール」』(108ページ～)に記載したとおり、必要に応じて都市計画、景観計画等に基づくルールづくりについても検討していきます。</p>
23	<p>リニアに伴う投資と出来上がったものは途方も無い「ハコモノ」として市の財政を圧迫し市民に多大な負担を強いる事になるため、リニアの建設自体に反対し、中津川市のリニア建設に付随する街創り計画には反対。</p>	<p>駅と駅周辺整備の基本的な考え方として、『リニアのまちづくりの顔となる「リニア駅と駅周辺」』(100ページ～)に記載したとおり、「交通結節点として便利で利用しやすく、必要な機能がコンパクトにまとまった駅と駅周辺」とし、身の丈に留意し段階的整備等を行うなど市の健全財政を維持しながら、一つひとつ着実にまちづくりを進めていきたいと考えております。</p>

(3) リニア中央新幹線事業に関する意見（4件）

意見 番号	意見概要	市の考え方
24	<p>新聞報道には、「リニア駅 機能最小限」「大胆に効率性と機能性を徹底的に追求したコンパクトな駅を目指す」とあったが、待合室もなくこれも地元でつくれということであれば、地元を軽視し舐めている。また、経済性だけでなく、勘ぐれば電磁波の影響が強いことから、開放的な駅舎にできないためとも思える。</p>	<p>今後、具体的な計画が明らかになっていく中で、利用しやすい駅として必要な機能や設備等について具体的な検討を行っていきます。 なお、JR東海より、地上駅の1Fは駅の施設部分を除いて地元等の賃借可能部分となることが公表されています。</p>
25	<p>国の超電導磁気浮上式鉄道実用技術評価委員会の見解を見ると、磁界、騒音、微気圧波・振動について、十分な技術が確立されていないと思われる。「磁界や騒音といったリニアという新しい乗り物に対する不安などの懸念もあるため、これらを払拭するための取り組みも重要です」(25ページ)とあるが、市は日照問題、騒音問題、電磁波による人体への影響をどの様に考えているのか。払拭するために市としてJR東海に申し入れたことはあるのか。</p>	<p>これまでのJR東海による説明会等において、JR東海は国や公的機関の定めた基準を遵守しながら事業を進めると説明しています。今年秋ごろに公表される環境影響評価準備書の中で、調査、予測及び評価の結果が示されると考えています。 環境面でのJR東海への申し入れについては、環境影響評価法に基づき、昨年2月に「中央新幹線(東京都・名古屋市間)環境影響評価方法書に対する岐阜県知事意見」を岐阜県からJR東海へ提出しておりますが、知事意見に当市の意見を盛り込むため、一昨年の12月に市としての意見を県に提出しております。 また、第7章「(1)リニア建設にかかるJR東海などへの対応」(113ページ)に、リニア関連工事や用地取得にあたって、「市として相談窓口の開設など住民の不安解消に努めること」について記述を追加しました。 なお、騒音、磁界などに関する詳しい内容はJR東海HPに、岐阜県知事意見については岐阜県及び当市のHPに掲載されております。</p>
26	<p>リニアは膨大な電力を必要とする鉄道システムであり、また電磁波の影響も解明されていない。 リニアの建設は、工事に必要な膨大な資材の生産や、工事自体によって膨大なエネルギーを消費し、建設後はさらに膨大な電力を消費します。つまりリニア建設は原発再稼働や新規建設が必要かつ絶対条件とも言えるものであり、人間がもうやってはいけない事だと考える。まして4度も核の惨禍を受けた(許してしまった)日本のやるべき事ではありません。</p>	<p>JR東海による説明会等において、リニアの消費電力については、「電力会社の供給力に比べて十分小さいこと」「今後も省エネの取り組みを継続していくこと」「同じ速度域の航空機と比べてCO₂排出量が約1/3であること」等が説明されております。 また、磁界についても「WHOの見解によると、国際的なガイドライン(ICNIRPのガイドライン)以下では磁界による健康への影響がないこと」、「国の基準では、超電導リニアの磁界は、ICNIRPのガイドライン以下に管理することが定められており、これを遵守すること」、「山梨リニア実験線の結果でもICNIRPのガイドラインを大きく下回っていること」等が説明されております。 なお、上記に関する詳しい内容はJR東海HPに掲載されております。</p>

意見番号	意見概要	市の考え方
27	<p>リニア新幹線の構造的な性格からして、市内に入ってからでも、阿寺断層をはじめいくつもの活断層と交わったり潜ったりするルートが、また「想定」される東海地震や南海トラフ大地震の影響や地殻変動なども気懸かり。</p>	<p>これまでのJR東海による説明会等において、「リニアは地震に強いシステムであること」「最新の耐震基準に従って構造物を作ること」「トンネルは地震の時に揺れにくいこと」などと説明しております。</p> <p>また、活断層については「長期間、広範囲にわたり調査等を実施しており、活断層の状況について十分把握していること」「活断層はなるべく回避する、通過する場合は活断層をできる限り短い距離で通過すること」「活断層を通過する場合でも適切な設計・工法により構築すること」などと説明しております。</p> <p>なお、上記に関する詳しい内容はJR東海HPに掲載されております。</p>

(4) その他の意見 (3件)

意見番号	意見概要	市の考え方
28	<p>リニア建設に伴い発生する残土を活用し中津商業高等学校北側の埋立てを行うことを提案する。</p> <p>この土地は耕作が難しく、住宅が少ない林と遊休地となっているが、地形的に堤防の費用が少なくすみ、市道79号線の拡幅工事中で道路も良い。</p> <p>埋立て後は、景観も素晴らしく、中津川駅やリニア駅からも近い、団地・工業地・スーパー・教育地等として利用できる。</p>	<p>「9-1 工事による直接効果の取り込み」(70ページ)にも記載しましたが、「トンネル残土を利用した埋立てによる用地確保」については、土地の有効活用に有益な取り組みであり、ご提案いただいた内容も参考にさせていただきながら検討していきたいと考えております。</p>
29	<p>県当局が新駅の場所にと考えている美乃坂本駅裏の田園地帯は、農業振興地域に指定されている。S53年に坂本地区土地改良組合が設立され、足掛け10年かけて、北部一帯や二軒屋、下洗井等212ha、茄子川地区50haのほ場整備作業が行われた。美乃坂本駅裏の中洗井地区(駅ホームから見える一帯)もS63年に換地会議が持たれ、土地所有の割合に応じて分配され現在に至っている。</p> <p>農業振興地域の解除だけはしてほしくない。</p>	<p>駅の詳細位置が公表(25年秋予定)された後に、具体的な整備区域の検討を行い、これに基づく必要な手続きを進めていきたいと考えております。</p>

意見 番号	意見概要	市の考え方
30	<p>市の作成した小冊子には、「土地は個人のものであるが、地域社会共有の資産でもある」という意識の醸成が対応策として考えられる」と書かれており、前後の文脈とからめて要約すると、「個人の所有する土地は、リニアのために有効活用すべきもの」というようにとれる。</p> <p>「土地を手放す」ことが必ずしも「公共の福祉」になるとは限らず、「土地を手放さず守りきる」ことが、「みんなのため」になるということもある。</p> <p>県・市が強行するなら、計画予定地から我が家や反対する住民の土地を外してほしい。又、JRにもその旨を伝えてもらいたい。</p>	<p>全国の道路、鉄道、公共施設等公共利用に供されている社会インフラは、すべてそれぞれの地域の住民の皆様や地権者の皆様のご理解とご協力により整備されたものであり、そのおかげで市民の日常の暮らしや様々な経済活動が成り立っています。</p> <p>ご指摘の文言については、こうした考え方をベースに記載しているところです。（「広域のまちづくりに関する調査研究業務報告書(ダイジェスト版)」14ページ基盤整備の3行目～4行目）</p> <p>全国新幹線鉄道整備法に基づき進められている中央新幹線計画も、広く公共利用に供される有益な社会インフラの一つであると同時に、これに伴うまちづくりは、当市にとって地域の活性化、コミュニティーの維持等に資する大きなチャンスだと考えております。</p> <p>整備にあたっては、JR東海や県等と協力し、地権者や地域の皆さまにご理解いただけるよう、丁寧なご説明に努めてまいりますので、ご協力をお願いいたします。</p>